

现代日语

新

日语能力考试

指导概要版和试题例集

(N1, N2, N3)

日本国际交流基金

日本国际教育支援协会

著

西藤洋一

慧子 编

学林出版社



现代日本語

新日语能力考试

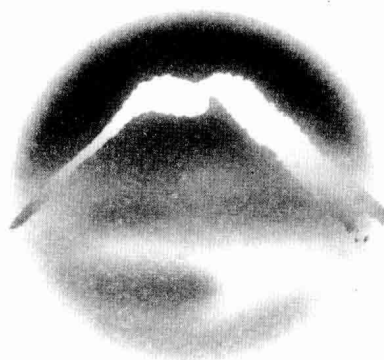
指导概要版和试题例集

(N1, N2, N3)

日本国际交流基金
日本国际教育支援协会

著

西藤洋一 慧子 编



学林出版社

图书在版编目(CIP)数据

新日语能力考试 指导概要版和试题例集(N1,N2,N3)/日本国际
交流基金,日本国际教育支援协会编著. —上海:学林出版社,2010.6
ISBN 978-7-5486-0028-2

I. ①新... II. ①国... ②日... III. ①日语—水平考试—自学
参考资料 IV. ①H360.41

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 098785 号



新日语能力考试 指导概要版和试题例集(N1,N2,N3)

作 者——日本国际交流基金
日本国际教育支援协会

编 者——西藤洋一 慧 子

责任编辑——薛 仁

特约编辑——陈晶龙

封面设计——周剑峰

出 版——上海世纪出版股份有限公司
学林出版社(上海钦州南路81号3楼)
电话:64515005 传真:64515005

发 行——上海世纪出版股份有限公司发行中心
(上海福建中路193号 www.ewen.cc)

印 刷——启东人民印刷有限公司

开 本——787×1092 1/16

印 张——7.75

字 数——18 万

版 次——2010 年 6 月第 1 版
2010 年 6 月第 1 次印刷

书 号——ISBN 978-7-5486-0028-2/G·10

定 价——23.00 元(附赠光盘)

(如发生印刷、装订质量问题,读者可向工厂调换)

前 言

日本国际交流基金会和日本国际教育协会（现日本国际教育支援协会）举办的日语能力考试，是以非日语为母语的人为对象进行日语能力评定的考试。从1984年开始以来，全世界参加考试的人数由当初的7000人左右，至2008年突破了56万人，业已成为世界最大规模的日语考试。

近年来，参加日语能力考试的人呈现多样化趋势，不仅有在大学学习日语的学生，还有在工作中需要日语的社会人员、在日本生活需要日语的移居者及将日语列入教育课程的一部分学校的高中生和初中生等等。同时，考试者参加考试的目的也在变化，除了日语能力与水平的鉴定外，还有为了就职、加薪、晋级等。

在该考试实施以来的20多年间，应用语言学、日语教育学，教育考试理论等均有所发展，并且关于该考试结果的各项数据储备也越来越充分；另外，还产生了很多关于该考试的希望和建议。在这一基础上，日本国际交流基金会和日本国际教育支援协会于2005年举办了“关于日语能力考试改善研讨会”，会后在许多专家的支持与协助下，决定在2010年实施新的日语能力考试。

本书就是为新的日语能力考试而准备的练习题册，它将新的日语能力考试的概要、各级考试例题、听解例题的声音部分融于一炉，并且在日语能力考试网站（<http://www.jlpt.jp/>）上随时增补，供读者合并使用。

新的日语能力考试及这本练习题册如果能对参加考试者和有关人员有所帮助，我们将感到非常荣幸。

编著者

2010年6月

目次

◎新しい「日本語能力試験」の概要	1
1. 新しい「日本語能力試験」について	2
2. 改定のポイント	2
3. 認定の目安	4
4. 試験科目と試験時間	5
5. 試験の結果	6
6. 問題の構成	8
7. よくある質問	9
◎試験問題の構成	12
◎問題例	19
■ N1	
言語知識 (文字・語彙・文法)・読解	20
聴解	39
■ N2	
言語知識 (文字・語彙・文法)・読解	46
聴解	63
■ N3	
言語知識 (文字・語彙)	70
言語知識 (文法)・読解	74
聴解	86
◎解答用紙 (マークシート)	
N1	92
N2	94
N3	96

◎正解

N1	99
N2	100
N3	101

◎聴解スクリプト

N1	102
N2	107
N3	112

※注意

1. 試験問題例について

各大問における小問数は、実際に出題される問題数とは異なります。

2. 解答用紙について

解答用紙は実際の形式と異なります。練習用にご利用ください。

新しい「日本語能力試験」の概要

1 新しい「日本語能力試験」について

日本語能力試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験として、国際交流基金と日本国際教育支援協会が1984年から実施しています。2008年には全世界で約56万人が受験しました。

近年、日本語能力試験の受験者が多岐にわたり、その受験目的も実力の測定に加え、就職・昇給・昇格のためと、変化が見られるようになりました。試験に関する要望や提言も出されました。

そこで、国際交流基金と日本国際教育支援協会では、試験開始から20年以上の間に発展してきた日本語教育学やテスト理論の研究成果とこれまでに蓄積してきた試験結果のデータなどを用いて日本語能力試験の内容を改定し、2010年から新しい日本語能力試験を実施することとしました。

2 改定のポイント

(1) 課題遂行のための言語コミュニケーション能力を測ります

日本語に関する知識とともに、実際に運用できる日本語能力を重視します。そのため、文字・語彙・文法といった言語知識と、その言語知識を利用してコミュニケーション上の課題を遂行する能力を測ります。

※解答は現行試験と同様に、選択枝によるマークシート方式で行います。なお、話したり書いたりする能力を直接測る試験科目はありません。

(2) レベルを4段階から5段階に増やします

レベルを現行試験の4段階(1級、2級、3級、4級)から5段階(N1、N2、N3、N4、N5)に増やします。新試験のレベルと現行試験の級の対応は下の通りです。

N1	現行試験の1級よりやや高めのレベルまで測れるようになります。合格ラインは現行試験とほぼ同じです。
N2	現行試験の2級とほぼ同じレベルです。
N3	現行試験の2級と3級の間のレベルです。(新設)
N4	現行試験の3級とほぼ同じレベルです。
N5	現行試験の4級とほぼ同じレベルです。

「N」は「Nihongo(日本語)」、「New(新しい)」を表します。

(3)「得点等化」を行います

異なる時期に実施される試験では出題される問題が異なるので、どんなに慎重に問題を作成しても、毎回の試験の難易度が多少変動してしまいます。そこで、新試験では「等化」という方法を用い、試験の得点が難易度の影響を受けることをなくし、公平性を保ちます。

(4)「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)を提供します

各レベルの合格者が、日本語を使用して実際にどのようなことができるかと考えているかを調査した「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)を提供します。

この Can-do リストを手がかりに、合格者本人やまわりの人々が、試験の結果をより具体的に理解できるようにすることを目指します。

現在作成中のリストから記述例の一部を紹介します。

■「日本語能力試験 Can-do リスト」(仮称)の記述例

聞 く	学校や職場、公共の場所でのアナウンスを聞いて、大まかな内容が理解できる。
話 す	アルバイトや仕事の面接などで、希望や経験を詳しく述べることができる。
読 む	関心のある話題に関する新聞や雑誌の記事を読んで、内容が理解できる。
書 く	感謝や謝罪、感情を伝える手紙やメールが書ける。

※上の記述例に対応するレベルは現在調査中のため示していません。

3

認定の目安

各レベルの認定の目安は下のとおりです。認定の目安を「読む」「聞く」という言語行動で表しています。それぞれのレベルには、これらの言語行動を実現するための言語知識が必要です。

レベル	認定の目安
N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる 読む ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。 ・さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。 聞く ・幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる 読む ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。 ・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。 聞く ・日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。
N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる 読む ・日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。 ・新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。 ・日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。 聞く ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。
N4	基本的な日本語を理解することができる 読む ・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。 聞く ・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる 読む ・ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な語句や文、文章を読んで理解することができる。 聞く ・教室や、身の回りなど、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。

4 しけん か もく しけん じ かん 試験科目と試験時間

かく しけん か もく しけん じ かん し た と お
各レベルの試験科目と試験時間は下の通りです。

レベル	しけん か もく 試験科目 (しけん じ かん 試験時間)		
N1	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文字・語彙・文法)・読解 (110分)		ちやう かい 聴解 (60分)
N2	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文字・語彙・文法)・読解 (105分)		ちやう かい 聴解 (50分)
N3	げん ご ち し き も じ ご い 言語知識 (文字・語彙) (30分)	げん ご ち し き ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文法)・読解 (70分)	ちやう かい 聴解 (40分)
N4	げん ご ち し き も じ ご い 言語知識 (文字・語彙) (30分)	げん ご ち し き ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文法)・読解 (60分)	ちやう かい 聴解 (35分)
N5	げん ご ち し き も じ ご い 言語知識 (文字・語彙) (25分)	げん ご ち し き ぶん ぽう ど っ か い 言語知識 (文法)・読解 (50分)	ちやう かい 聴解 (30分)

しけん じ かん へん こう ば ゐ
※試験時間は変更される場合があります。また「聴解」は、試験問題の録音の長さによって試験時間が多少変わります。

N1とN2の試験科目は「言語知識 (文字・語彙・文法)・読解」と「聴解」の2科目です。

N3、N4、N5の試験科目は「言語知識 (文字・語彙)」「言語知識 (文法)・読解」「聴解」の3科目です。

5 し けん けっ か 試験の結果

(1) し けん けっ か ひょう じ 試験結果の表示

かく レベルの とく てん く ん とく てん はん い し た と き
各レベルの得点区分と得点の範囲は下の通りです。

レベル	とく てん く ん 得点区分	とく てん はん い 得点の範囲
N1	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう 言語知識(文字・語彙・文法)	0 ～ 60
	どっ かい 読解	0 ～ 60
	ちやう かい 聴解	0 ～ 60
	そう ぐう とく てん 総合得点	0 ～ 180
N2	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう 言語知識(文字・語彙・文法)	0 ～ 60
	どっ かい 読解	0 ～ 60
	ちやう かい 聴解	0 ～ 60
	そう ぐう とく てん 総合得点	0 ～ 180
N3	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう 言語知識(文字・語彙・文法)	0 ～ 60
	どっ かい 読解	0 ～ 60
	ちやう かい 聴解	0 ～ 60
	そう ぐう とく てん 総合得点	0 ～ 180
N4	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう どっ かい 言語知識(文字・語彙・文法)・読解	0 ～ 120
	ちやう かい 聴解	0 ～ 60
	そう ぐう とく てん 総合得点	0 ～ 180
N5	げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう どっ かい 言語知識(文字・語彙・文法)・読解	0 ～ 120
	ちやう かい 聴解	0 ～ 60
	そう ぐう とく てん 総合得点	0 ～ 180

N1、N2、N3の得点区分は「げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう」「どっ かい」「ちやう かい」の3区分です。

N4、N5の得点区分は「げん ご ち し き も じ ご い ぶん ぽう どっ かい」と「ちやう かい」の2区分です。

(2) 合否の判定

総合得点と、各得点区分の基準点の二つで合否判定を行います。基準点とは、各得点区分で少なくともこれ以上が必要という得点です。得点区分の得点が一つでも基準点に達していない場合は、総合得点がどんなに高くても不合格になります。各得点区分に基準点を設けるのは、学習者の日本語能力を総合的に評価するためです。

総合得点と各得点区分の基準点による合否判定の詳細は2010年に決定します。

(3) 試験結果の通知

下の例のように、①「得点区分別得点」と得点区分別の得点を合計した②「総合得点」、今後の日本語学習のための③「参考情報」を通知します。③「参考情報」は合否判定の対象ではありません。

■ 例 N3を受験したYさんの「合否結果通知書」の一部
(実際の書式は変更される場合があります)

①	得点区分別得点			②
	言語知識 (文字・語彙・文法)	読解	聴解	
	50 / 60	30 / 60	40 / 60	
				総合得点
				120 / 180

③	参考情報*	
	文字・語彙	文法
	A	C

A	よくできた (正答率67%以上)
B	できた (正答率34%以上67%未満)
C	あまりできなかった (正答率34%未満)

*「言語知識(文字・語彙・文法)」について、参考情報を見ると「文字・語彙」はA(正答率67%以上)で「よくできた」こと、「文法」はC(正答率34%未満)で「あまりできなかった」ことがわかります。

6 もんだい 構成 問題の構成

各レベルで出題する問題の構成と問題数は下の通りです。

それぞれの問題の形式や内容については25ページ以降の問題例をご覧ください。

試験科目 しけん かく		大 問 たいもん	問題数 もんだいすう				
			N 1	N 2	N 3	N 4	N 5
げん ことば しき 言語知識 ・ どくかい 読解	も じ 文字 ・ ご 語彙	かん じ よ 漢字読み	6	5	8	9	12
		ひょう じ 表記	—	5	6	6	8
		ご けいせい 語形成	—	5	—	—	—
		ぶん 脈 きてい 文脈規定	7	7	11	10	10
		い かい げん ぎ 言い換え類義	6	5	5	5	5
		よう ほう 用法	6	5	5	5	—
	もんだいすうごうけい 問題数合計		25	32	35	35	35
	ぶん ほう 文 法	ぶん ぶん ほう ぶん ほう けい しき ほん だん 文の文法1(文法形式の判断)	10	12	13	15	16
		ぶん ぶん ほう ぶん ぶん ぐ た 文の文法2(文の組み立て)	5	5	5	5	5
		ぶん しょう ぶん ほう 文章の文法	5	5	5	5	5
	もんだいすうごうけい 問題数合計		20	22	23	25	26
	どく かい 読 解*	ない よう り かい たん ぶん 内容理解(短文)	4	5	4	4	3
		ない よう り かい ちゅう ぶん 内容理解(中文)	9	9	6	4	2
		ない よう り かい ちゅう ぶん 内容理解(長文)	4	—	4	—	—
		どう ぐう り かい 統合理解	3	2	—	—	—
		しゅ ちよう り かい ちゅう ぶん 主張理解(長文)	4	3	—	—	—
		じよう ほう けん さく 情報検索	2	2	2	2	1
	もんだいすうごうけい 問題数合計		26	21	16	10	6
ちよう かい 聴 解	か だい り かい 課題理解	6	5	6	8	7	
	り かい ポイント理解	7	6	6	7	6	
	がい よう り かい 概要理解	6	5	3	—	—	
	はつ ぶ びやう げん 発話表現	—	—	4	5	5	
	そく じ おう とう 即時応答	14	12	9	8	6	
	どう ぐう り かい 統合理解	4	4	—	—	—	
もんだいすうごうけい 問題数合計		37	32	28	28	24	

*問題数は毎回の試験で出題される目安で、実際の試験での出題数は多少異なることがあります。また、問題数は変更される場合があります。

*「読解」では、一つのテキスト(本文)に対して、複数の問題がある場合もあります。

7 よくある質問

◆ 新試験について

Q1 新試験は年に何回実施されますか。

A1 7月と12月の2回です。ただし、海外では7月の試験を実施しない国・地域があります。
詳しくは、国際交流基金のホームページ (<http://www.jipt.jp/>) に掲載します。

Q2 新試験の日は決まっていますか。

A2 7月と12月の初旬の日曜日に行います。

Q3 新試験はどこで受けられますか。

A3 日本で受験する人は日本国際教育支援協会のホームページ (<http://www.jees.or.jp/jipt/>) を見てください。海外で受験する人は、国際交流基金のホームページ (<http://www.jipt.jp/>) の「お知らせ」⇒「海外の実施機関」⇒「リスト」から試験を実施している都市を調べることができます。また、台湾で受験する人は財団法人交流協会のホームページ (<http://www.koryu.or.jp>) を見てください。

◆ 試験問題について

Q4 新試験では、現行試験のように前年に実施した試験の問題集が出版されますか。

A4 いいえ。前年に実施した試験の問題をすべて掲載した問題集は出版しません。
この問題例集は、実際に出題する試験問題と同形式の問題で構成していますので、練習問題として活用してください。また、2012年には、2010年と2011年に出版した問題集の一部をこの問題例集に加えて、試験1回分の問題数に相当する形で新たに問題例集として発行します。その後は一定期間ごとに、実際に出版した試験問題を使って問題集を発行していく予定です。

Q5 N1とN2の試験科目「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」が、N3、N4、N5で「言語知識(文字・語彙)」と「言語知識(文法)・読解」の二つに分かれているのはなぜですか。

A5 N3、N4、N5では、試験に出題できる語彙や文法の項目が少ないため、N1とN2のように「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」の一つの試験科目にまとめると、いくつかの問題がほかの問題のヒントになることがあるためです。

Q6 新試験では、日本に関する文化的な知識が必要な問題が出題されますか。

A6 日本に関する文化的な知識そのものを問う問題はありません。文化的な内容が問題に含まれる場合もありますが、その知識がなければ解答できないような問題は出題しません。

◆ 語彙や漢字、文法項目のリストについて

Q7 新試験では、現行試験のような『出題基準』は出版されますか。

A7 いいえ。語彙や漢字、文法項目のリストが掲載された『出題基準』は新試験では出版しません。

Q8 『出題基準』を出版しないのは、どうしてですか。

A8 日本語学習の最終目標は、語彙や漢字、文法項目の暗記ではなく、それらをコミュニケーションの手段として実際に利用できるようになることだと考えます。新試験では「文字・語彙・文法」とともに、「その言語知識を利用して、コミュニケーション上の課題を遂行する能力」を測ります。したがって、語彙や漢字、文法項目のリストが掲載された『出題基準』の出版は必ずしも適切ではないと判断しました。

Q9 新試験を受験する人を教えるために、『出題基準』に代わる情報はありますか。

A9 各レベルの認定の目安(10ページ)、試験問題の構成(18ページ)、問題例(25ページ以降)があります。また、新試験のレベルは現行試験の級と対応していますので(8ページ)、現行試験の問題や『出題基準』も手がかりになります。

◆ 試験の結果について

Q10 新試験の得点と現行試験の得点を比べることができますか。

A10 いいえ。新試験では試験科目や得点の出し方などが変わりますので、現行試験の得点と比べることはできません。

Q11 試験の結果を受け取るとき、N1、N2、N3では得点区分が「言語知識(文字・語彙・文法)」と「読解」に分かれています。N4、N5では「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」の一つだけになっています。どうしてですか。

A11 日本語学習の基礎段階にあるN4、N5では、「言語知識」と「読解」の能力で重なる部分が多いので、「読解」だけの得点を出すよりも、「言語知識」と合わせて得点を出すことが学習段階の特徴に合っていると考えるためです。

◆ そのほか

Q12 今後、新試験の情報はどこでわかりますか。

A12 日本語能力試験のホームページで随時更新を行いますので、<http://www.jlpt.jp/> に掲載される内容を参照してください。